

(5) 指揮車及び付属品

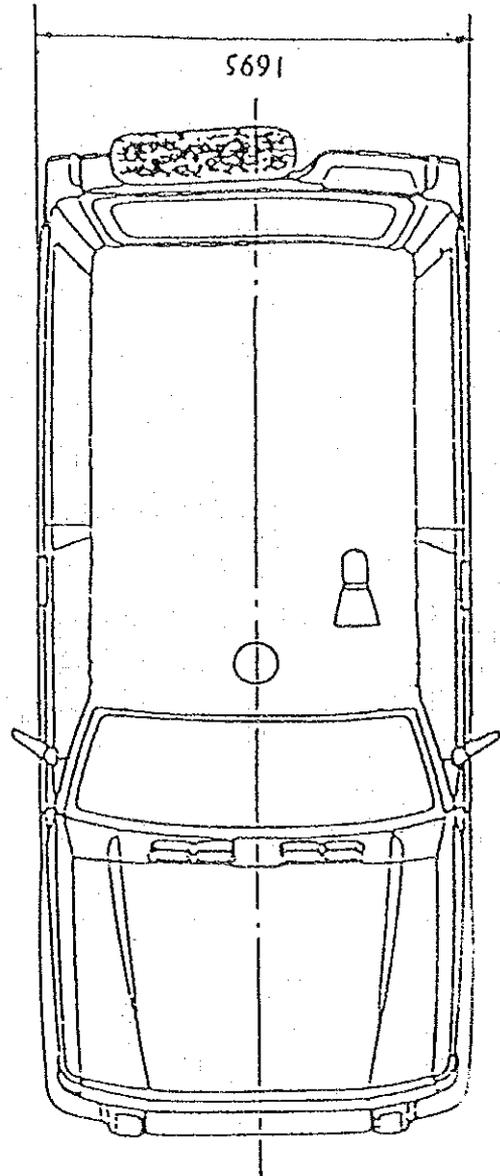
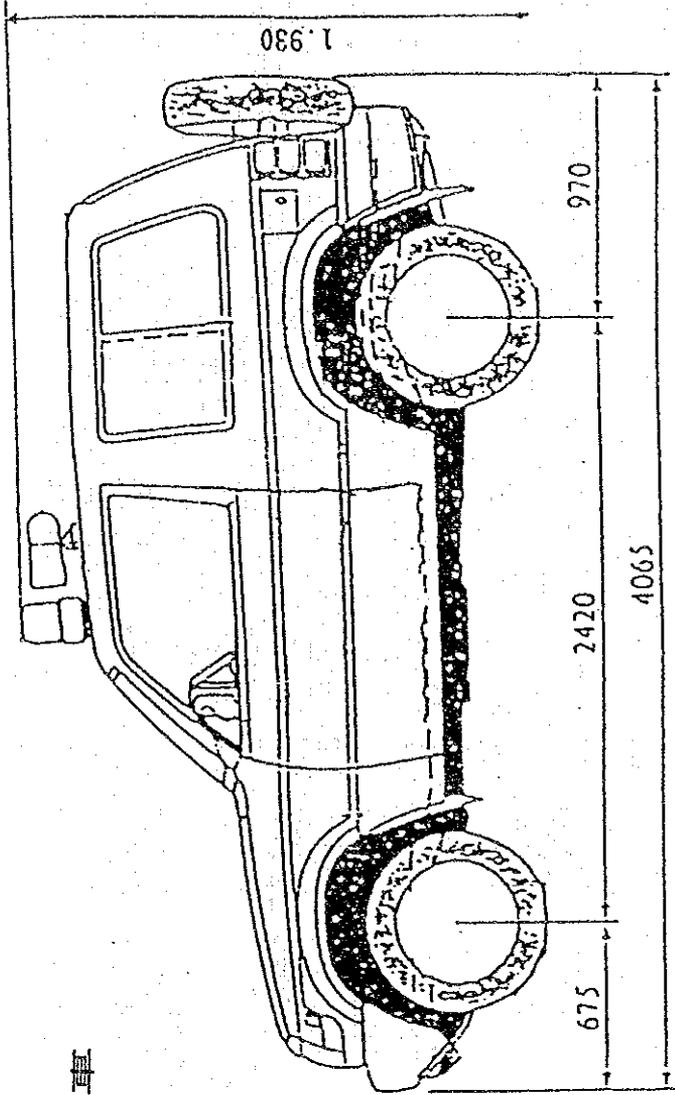
a. シャシー

- 1) エンジン : ディーゼル 7.0馬力 以上
- 2) ドライブ : 全輪駆動(4×4)
- 3) ハンドル : 右ハンドル
- 4) トランスミッション: 手動式
- 5) 座席数 : 座席定員5名

b. 付属品(アクセサリ)

- 1) 赤色回転灯 1ヶ
- 2) スピーカー付サイレン 1ヶ
- 3) 車載用無線機(134-174 MHz) 1ヶ
- 4) スペアタイヤ 1ヶ
- 5) その他の標準付属品 1式

指揮車



(6) 機材搬送車及び付属品

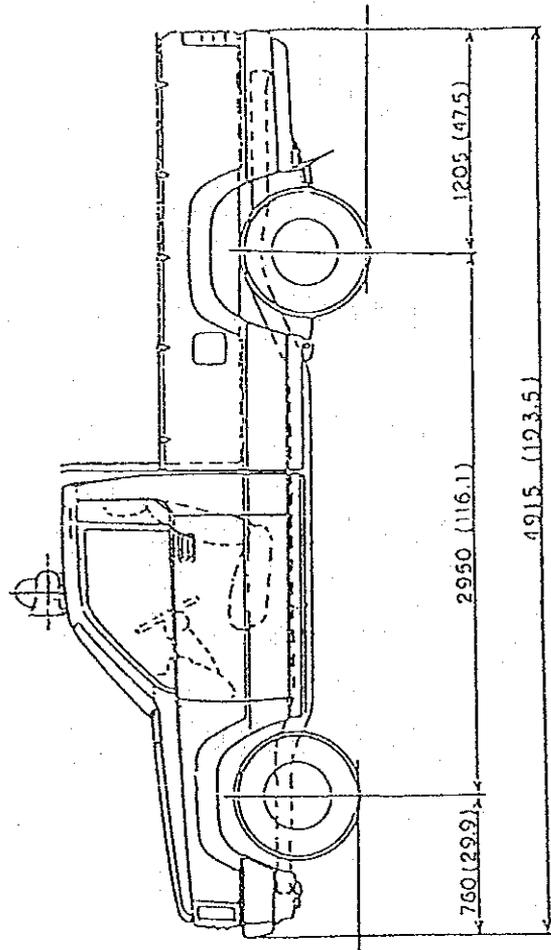
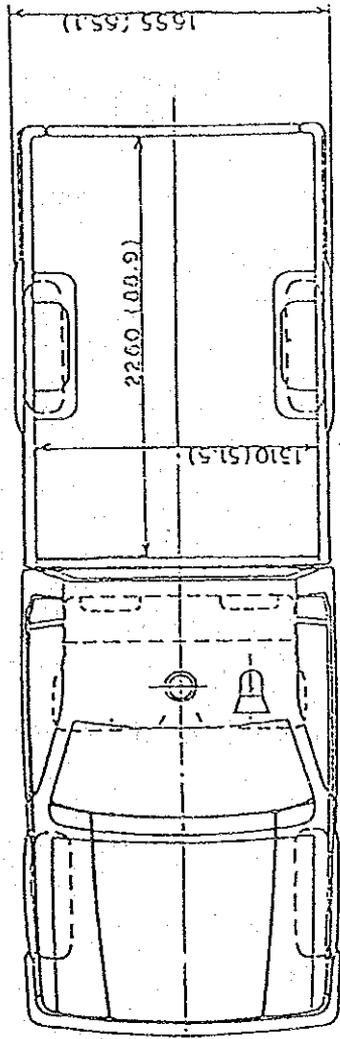
a. シャシー

- 1) エンジン : ディーゼル 70馬力 以上
- 2) ドライブ : 全輪駆動(4×4)
- 3) ハンドル : 右ハンドル
- 4) トランスミッション: 手動式
- 5) 座席数 : 座席定員3名

b. 付属品(アクセサリ)

- 1) 赤色回転灯 1ヶ
- 2) スピーカー付サイレン 1ヶ
- 3) 車載用無線機(134-174 MHz) 1ヶ
- 4) スペアタイヤ 1ヶ
- 5) その他の標準付属品 1式

機材搬送車



(7) 救助器具及び付属品

| | |
|---|------|
| a. ポータブルポンプ (性能 : 1, 800 ℓ/min) | 2 式 |
| b. 空気呼吸器 (充填圧 : 200 kg/cm ²) | 5 式 |
| c. 耐熱服 (バックポケット : 空気呼吸器内蔵可能型) | 5 式 |
| d. 救助袋 (長さ : 30 m) | 1 式 |
| e. 救助マット (直径 : 3.5 m) | 1 式 |
| f. 緩降機 (長さ : 30 m) | 2 式 |
| g. 消防服セット (ヘルメット、コート、ブーツ、手袋) | 10 式 |
| h. 携帯無線機 (周波数 : 134 - 174 MHz 6チャンネル) | 5 式 |
| i. 空気呼吸器用エアークンプレッサー (性能 : 0.14 m ³ /min) (電気式 : 220 V) | 1 式 |
| j. 基地局用無線機 (周波数 : 134 - 174 MHz 6チャンネル) | 1 式 |

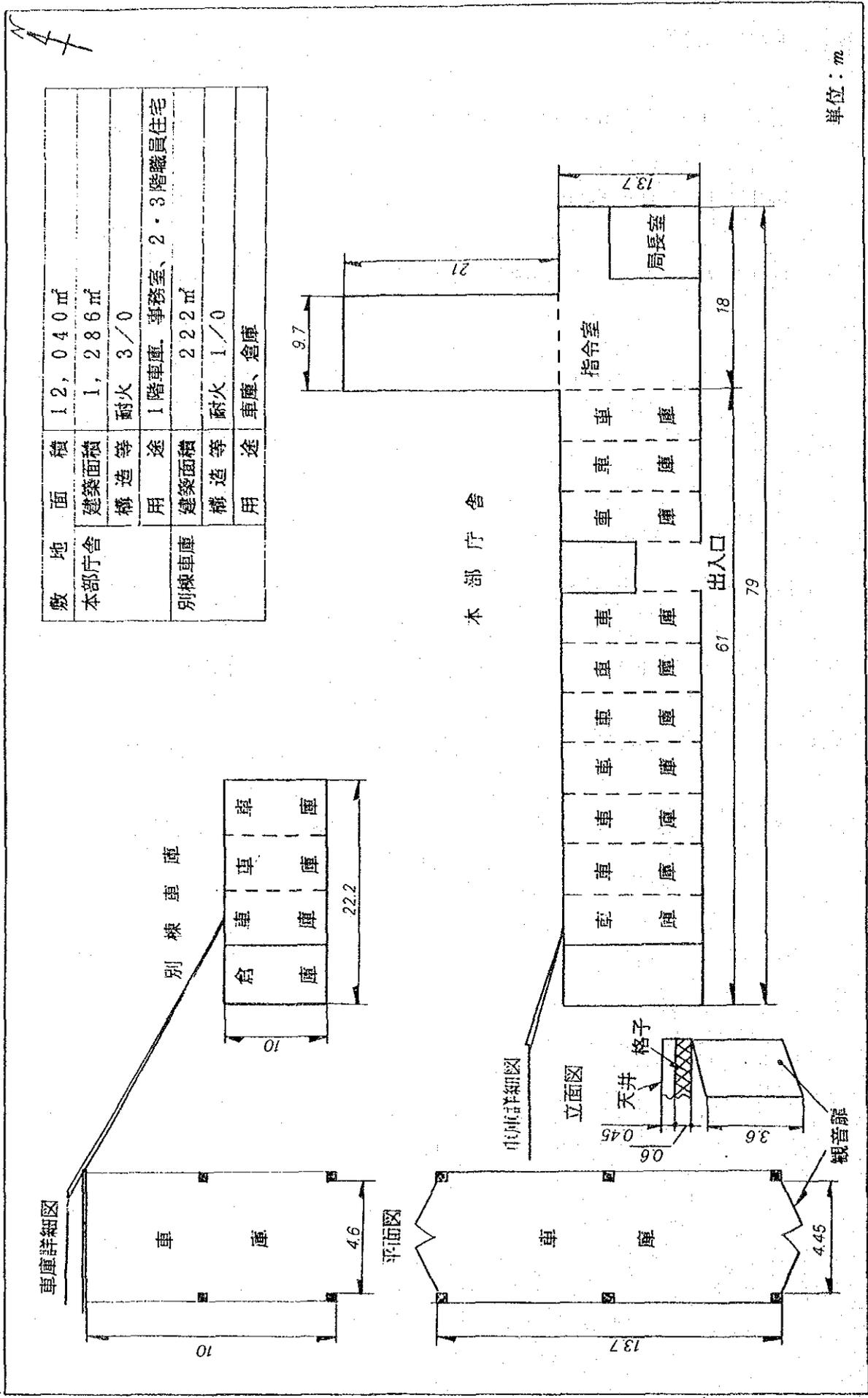
4.3.2 機材配置計画

計画車両を配置する消防局本部庁舎及び外交官区域消防署の平面図を次に示す。

図4-1 CDA消防局本部庁舎 1階平面図

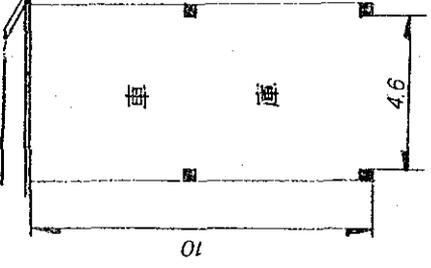
図4-2 外交官区域消防署 1階平面図

C D A 消防局・本部庁舎概要図

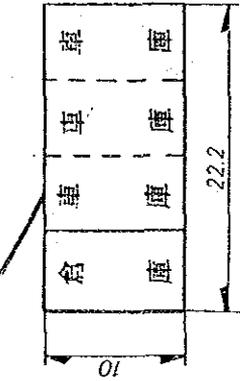


| | | |
|------|------|-------------------|
| 敷地 | 面積 | 12,040㎡ |
| 本部庁舎 | 建築面積 | 1,286㎡ |
| | 構造等 | 耐火 3/0 |
| 別棟車庫 | 用途 | 1階車庫、事務室、2・3階職員住宅 |
| | 建築面積 | 222㎡ |
| | 構造等 | 耐火 1/0 |
| | 用途 | 車庫、倉庫 |

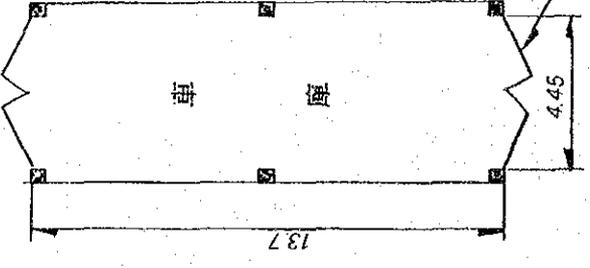
車庫詳細図



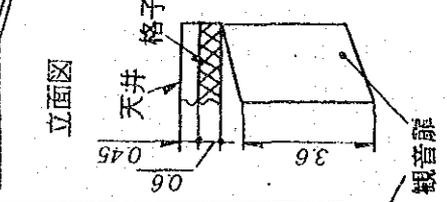
別棟車庫



平面図



車庫詳細図



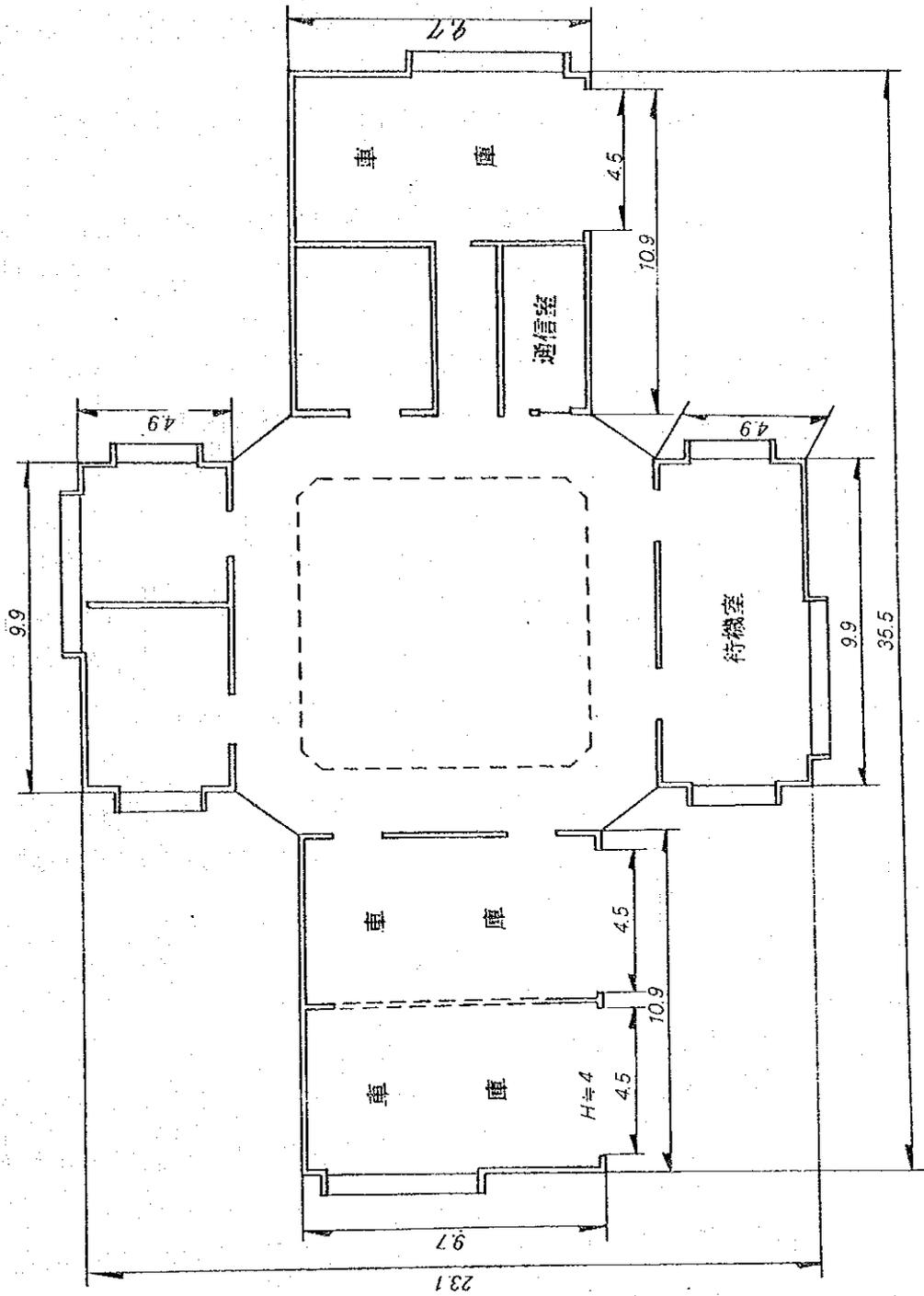
立面図

本部庁舎

道路

外交官区域消防署・庁舎概要図

| | |
|------|-------------------|
| 建築面積 | 490㎡ |
| 構造等 | 耐火 3/0 |
| 用途予定 | 1階車庫、事務室、2・3階職員住宅 |



単位：m

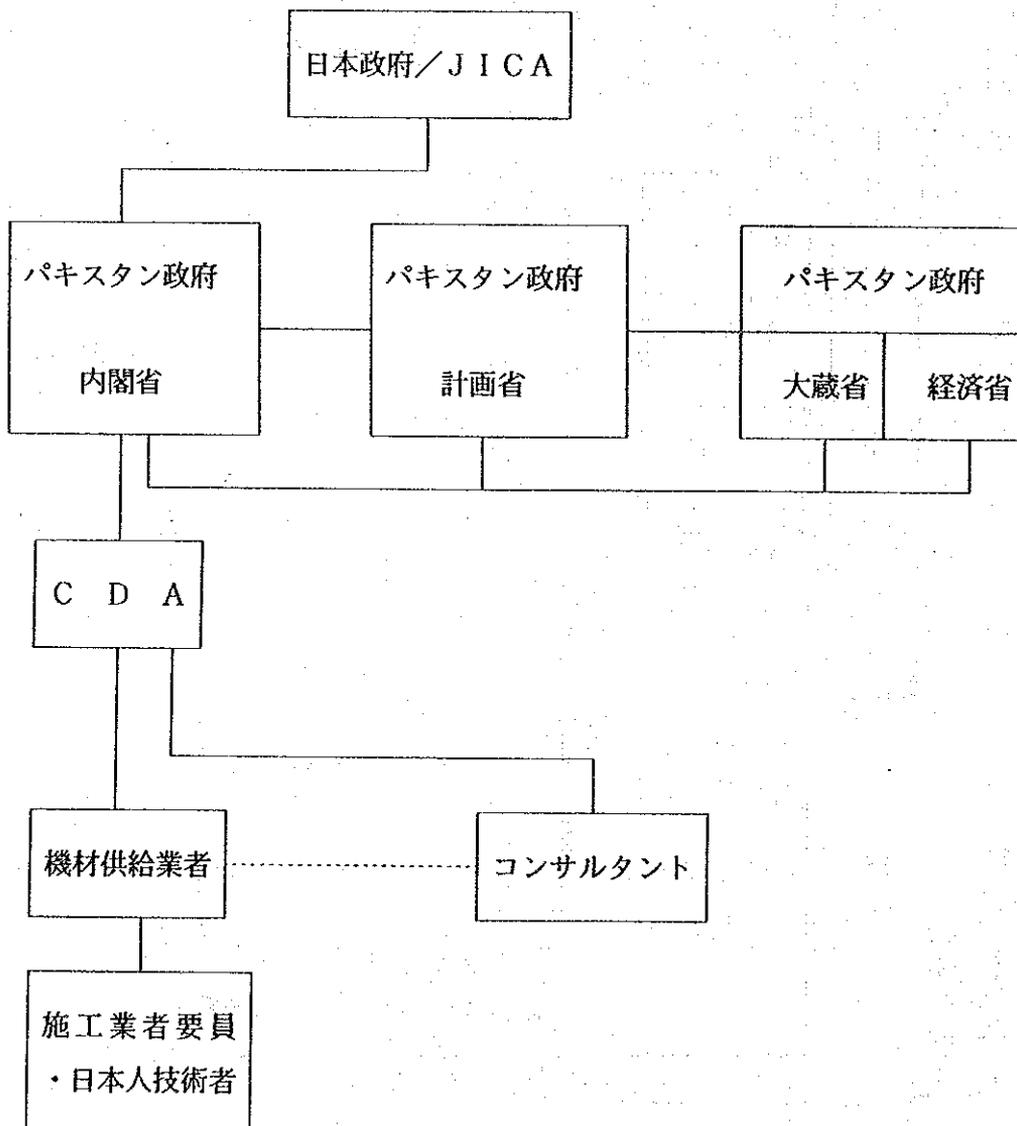
4. 4 施工計画

4.4.1 施工方針

本計画は、パキスタン側が負担措置する建物・設備の工事部分と日本政府の無償資金協力による機材の調達部分から成る。本計画の実施機関であるCDAは、日本国のコンサルタントと契約し、詳細設計、入札図書作成、入札審査、機材の施工管理を代行させる。

なお、事業実施に当たっての実施体制は図4-3のとおりである。

図4-3 事業実施体制



4.4.2 事業実施上の留意点

本計画に関する機材は、特殊な車両であり艤装の施工期間が長いものが多く、施工期間について考慮しなければならない。

計画機材の運用指導にあたるメーカー技術者の派遣については、無駄な待ち時間を無くし効率良く行えるように、適切な派遣時期を選定する必要がある。

4.4.3 施工監理計画

日本政府無償資金協力の方針及びコンサルタント契約に基づき、基本設計の趣旨を踏まえ、コンサルタントは実施設計及び監理業務について、一貫したプロジェクト遂行チームを組み、業務完了まで遅滞なく本計画を遂行させなければならない。施工監理段階においては、機材製作図の承認、工場完成テストの立会い及び引き渡し時の検査に専門家を適宜出張させ、施工を円滑に進める必要がある。

4.4.4 事業負担区分

(1) 日本側負担業務

事業実施に当たり、日本側の業務は次のとおりである。

- 1) 機材の調達、試運転調整及び運転指導、操作訓練の実施
- 2) 海上輸送及び引き渡し前検査の実施

(2) パキスタン側負担業務

パキスタン側は、無償資金協力の方針に則り、首都圏の消防力強化の目的を達成出来るように、建屋の整備、用役の供給、その他を行う必要がある。パキスタン側の負担業務は次のとおりである。

1) 建屋（車庫の扉）の改修工事

CDA消防局本部庁舎の車庫の天井高さは、梯子付消防車の格納に支障はないが、車庫全面の扉上部の格子窓によって高さが不足しており、この格子窓を撤去して扉を大き

くする必要があり、これらの改修はCDA側で行う。

2) 機材の操作・訓練に必要な水その他の用役の供給

放水訓練に必要な大量の水の確保、及び各種訓練が円滑に実施できるよう必要な支援人員を確保する。

3) パキスタン国内の港からイスラマバードまでの内陸輸送

陸揚げされた機材の内陸輸送を迅速に行い、イスラマバードに到着できるように措置すること。

4) 手続業務、費用負担等

- ・ 銀行取決めに伴う費用の負担。
- ・ 免税手続きに伴う費用の負担。
- ・ 日本側の担当する機材の陸揚げ、通関が迅速に行われるよう措置をとること。
- ・ 認証された契約に基づき、計画実施に携わる日本人に対して、パキスタンで課せられる関税、国内の諸税、その他の課徴金に対する免税手続又は税の負担。
- ・ 同上の日本人の業務遂行のためのパキスタンへの入国、滞在に必要な便宜の供与。
- ・ 本計画の運営、管理に必要とされるスタッフの配備。

上記業務負担範囲は、表4-1に示すとおりである。

4.4.5 機材調達計画

(1) 調達方法

本計画の機材調達は機材供給業者（商社）による一括入札とする。機材は日本製品または現地製品を原則とするが、救助器材のうち特殊な器材については、下記の理由により、第三国製品の導入を考慮に入れる。

油圧救助器具、チェーンソー、及びマット型空気ジャッキについては、国産品に適当な物がない場合、又は性能的に第三国製品が優れている場合は価格等を考慮したうえ、第三国製品を選定する。

表4-1 業務負担範囲

| 業務内容 | 日本側 | パキスタン側 |
|---|-----|--------|
| ① 機材 | | |
| 1) 機材調達 | ○ | |
| 2) 試運転調整 | ○ | |
| 3) 運転指導・訓練 | ○ | |
| ② 建屋の改修工事（車庫の扉の改修） | | ○ |
| ③ 輸出・通関手続き | | |
| 1) パキスタン・カラチ港までの輸送 | ○ | |
| 2) 免税及び通関手続き | | ○ |
| 3) パキスタン国内輸送（カラチ港から現場まで） | | ○ |
| ④ 日本の外為銀行に対するB/A手数料の支払い | | ○ |
| ⑤ パキスタンでの本計画関連業務に携わる日本人の出入国、滞在のための手続き上の便宜 | | ○ |
| ⑥ 無償資金協力による機材の適切かつ効果的運用管理 | | ○ |
| ⑦ 無償資金協力に含まれない施設の建設、機材の運搬にかかるすべての経費の負担 | | ○ |
| ⑧ 施工に必要な認可等の手続き | | ○ |

(2) 機材輸送

機材は一括して船積みされ、パキスタン・カラチ港に陸揚げする。カラチからイスラマバードまではCDA側で輸送する。今回の機材は大型特殊車両であり輸送に当たっては、過去のパキスタンへの輸送実績を参考にして、供給業者及びメーカーにその方法等について十分検討させ、トラブルが生じないように留意する必要がある。

4.4.6 実施工程

本計画を日本の無償資金協力により実施する場合、概略次の段階で進行する。

(1) 実施設計（詳細設計）

基本設計調査報告書をもとに、整備機材の詳細仕様を決定するとともに、入札図書を作成し、関係機関の了承を得る。この間約3カ月を要する。

(2) 施工

機材供給業者は、承認用図書、製作用図書の作成、機材の製作、船積みを行い、パキスタンへ機材を出荷する。受注業者は陸揚げされた機材について、CDA、コンサルタント及び関係者立会いのもとに、試運転を実施し、機器仕様と合致することを確認の上、パキスタン側に引き渡して事業を完了する。パキスタン側は事業完了証明を受注者に交付する。全ての工程が円滑に行われるならば、受注契約後事業完了までの期間は11カ月と見込まれる。

以上の事業実施工程表を図4-4に示す。

図4-4 事業実施工程表

| | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|---|--------------------|---|---|---|---|---|---|----|---------|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 実施設計 | (現地調査) | | (国内作業 詳細設計・入札図書作成) | | | | | | | | | |
| | | | (現地確認) | | | | | | | | (計 3ヵ月) | |

| | | | | | | | | | | | | |
|------------|---|---|---|---|---------|---|---|---|--------|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 機材調達 製造 | | | | | (製造・調達) | | | | | | | |
| | | | | | | | | | (海上輸送) | | | |

4.4.7 概算事業費

本計画を日本の無償資金協力により実施する場合に必要な事業費総額は、約5.27億円となり、先に述べた日本側とパキスタン側との負担区分に基づく双方の経費内訳は、下記に示す積算条件によれば次のとおりと見積もられる。

(1) 日本側負担経費

| 事業費区分 | 金額 |
|-------|---------|
| 機材費 | 4.90 億円 |
| 設計監理費 | 0.31 億円 |
| 合計 | 5.21 億円 |

(2) パキスタン側負担経費

パキスタン側が負担する事業費（本計画により整備する機材の設置に関連する費用）は、約111.80万Rs（約0.06億円）と見積もられる。その内訳は次のとおり

| 負担項目 | 金額 |
|---------------------|-------------------|
| 1) 建屋の改修工事（車庫の扉の改修） | 1.87万Rs（約10万円） |
| 2) 内陸輸送費 | 109.93万Rs（約587万円） |
| 合計 | 111.80万Rs（約597万円） |

(3) 積算条件

- 1) 積算時点 平成4年 2月
- 2) 為替交換レート 1 US\$ = 130.03 円
1 Rs = 5.34 円
- 3) 施工期間 事業実施工程表に示すとおり
- 4) その他 本計画は日本政府の無償資金協力の制度にしたがい実施されるものとする。

第5章 事業の効果と結論

第5章 事業の効果と結論

5.1 事業の効果

本計画の目的は、パキスタン首都圏住民の生命、身体及び財産を災害から保護し、火災等の災害に因る被害を軽減するために消防力の強化充実を図ろうとするものである。

また、本計画を通じてCDA消防体制がパキスタン国内の消防体制のモデルとなり、国家的事業として全国的な消防組織・体制の確立の指標となることが期待される。

このような目標に対し本計画の実施により期待される効果は表5-1のようになる。

表5-1 計画実施による効果と現状改善の程度

| 現状と問題点 | 本計画での対策 | 本計画の効果、改善程度 |
|---|---|--|
| <p>1 パキスタンは、独立以来近代国家建設に国をあげて取り組んでいるが、消防制度は大幅に遅れており、中でも首都圏の消防体制は、都市の近代化に十分な対応ができない現状である。</p> | <p>本計画により、機材は同消防局の本部庁舎、及び新設外交官区域消防署に配備される。</p> <p>なお、同消防局は首都圏消防の中核的存在であり、地域内の不足消防力をカバーする。</p> | <p>本計画の実施により、首都イスラマバード消防局の態勢は著しく強化改善される。また、このことは応援出動の充実により、隣接するラワルピンディ及び首都空港全体の災害対応力の強化に繋がる。</p> |
| <p>2 計画都市イスラマバードの建設は順調に進み、中・高層建築物は1991年10月末現在、257棟に達している。これらのビルで火災が発生した場合に、適切に対応できる機材が不足している。</p> | <p>4.6m梯子付消防車を整備することにより、中・高層階の火災に対応させる。</p> | <p>従前から配備されている2.7mスノーケル車は、修理不能の状態に陥っており、中・高層階の火災に適切に対応できないという、憂慮すべき事態が解消される。</p> |
| <p>3 首都の着実な発展に伴い、都市型災害としての特異な救助事象の発生危険が増大しており、これらの救助事象に対応する機材が不足しており、その整備が緊急の課題になっている。</p> | <p>当面、必要最小限の機材として、救助工作車1台及び救助器材1式を整備し、特異な救助事象に備える。</p> | <p>大規模な交通災害等の特異な救助事象に適切に対応し、迅速に被害者を救出するには、災害の状況に適した機材を活用する必要がある。本計画の実施により、長年の懸案が解決される。</p> |
| <p>4 首都圏の水道管網には消火栓の施設がなく、消火活動は専ら水槽付消防車に依存している。しかし、首都圏の消防機関が保有している水槽付消防車は老朽車が多く、29台中半数以下の14台が稼働しているに過ぎない。したがって、消火活動の主体となるこれらの車両の増強が急務となっている。</p> | <p>消火活動の主体となる水槽付消防車を増強するために、12,000ℓ型9台、4,000ℓ型2台の計11台を整備する。</p> <p>なお、4,000ℓ型2台の水槽付消防車は、ラワルピンディへの応援出動を考慮し、スピードが出せ、かつ、小回りのきく車両を選定した。</p> | <p>11台の水槽付消防車を整備することによって、CDAの保有水槽付消防車（中型以上）は、既存のもの合わせて25台に強化され、消火活動に威力を発揮することが期待される。</p> |
| <p>5 消防活動は、現場統括指揮者の活動方針に基づき、組織的に実施されなければ効果は期待できない。このため、現場統括指揮者と出動各隊の指揮者の連携が重要であるが、無線付指揮車及び機材搬送車等の整備が遅れている。</p> | <p>無線付指揮車をはじめ整備する全車両に携帯無線機を配置し、指揮命令及び状況報告等の円滑化を図る。</p> | <p>本計画の車両全てに携帯無線機を配置することによって、指揮者の命令伝達が容易になり、また、適時的確な報告を受けることにより、組織活動が円滑に行われる。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| <p>6 パキスタン国内の各都市の消防体制は、今後早急に整備強化を図る必要があるが、近代的な消防体制のモデルとなる都市がない。</p> | <p>本計画を実施することにより、他の都市の消防体制の整備の模範となる。</p> | <p>本計画の実施は、単に首都圏の消防力の強化に止まらず、その波及効果として、近代都市の消防体制のあり方について理解が深まり、全国的な消防制度の確立に大きく貢献するものと期待される。</p> |
|---|--|---|

5. 2 結論

消防の組織・体制の充実強化は、都市の近代化にとって欠かすことのできない重要な課題である。本計画は前述のようにパキスタン首都圏で発生する火災等の災害から、国民の生命、身体及び財産を保護するとともに、これらの災害に因る被害を軽減し、もって安寧秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資することを目的とする。

また、本計画はパキスタンが国を挙げて取り組んでいる都市の近代化に直接的、間接的に寄与するものであることから、日本の無償資金協力で実施することは妥当であると判断される。

さらに、本計画が実施された場合の運営管理についてもパキスタン側の体制は、組織、人員、予算ともに問題はないと考えられる。ただし、その効果が十分に発揮されるために、以下の点についてパキスタン側の自助努力が望まれる

(1) パキスタン側負担事項の実施

計画機材を配備する消防本部及び新設消防署の受入れ準備態勢を確立し、パキスタン側が行う機材の国内輸送及び車庫の改修工事の円滑な実施を図るとともに、日本側のサプライヤーが実施する陸揚げ、通関、技術指導に係る安全の確保、これらに関する諸手続の迅速な処理が必要である。

(2) 維持管理費の継続的確保

計画機材を活用するためには、適切な運営費の継続的確保は不可欠である。必要な維持管理費用について、CDAが継続的に予算を確保し、初期の目的どおり機材が活用されるよう努力しなければならない。

(3) 担当者の訓練

消防職員の適切な配置、訓練は整備機材の活用のために必要である。機材の操作、維持管理の責任体制を整え、担当者の訓練を機材配備計画に併せて遅滞なく実施する必要がある。

(4) 保守体制の整備

機材とともに整備される補給部品は一定量を常備する必要がある、その保管や在庫管理

に留意し不足部品の補充を適切にしなければならない。また整備機材の取扱い説明書類の内容を、機材の運用、メンテナンスにあたる者が良く理解するとともに、責任者を定めて管理することが大切である。

[資料編]

添付資料1

パキスタン イスラマバード消防機材整備計画 調査団構成

- | | | |
|--|---------------------------------|--|
| (1) 総括 Leader | 三好 皓一 MIYOSHI, Koichi | JICA無償資金協力調査部 基本設計調査第二課 課長 Director, Second Basic Design Study Division, Grant Aid Study & Design Department, JICA |
| (2) 消防政策 Firefighting Policy | 高橋 友彦 TAKAHASHI, Tomohiko | 自治省消防庁消防課 主幹 Chief Manager, Fire Defence Division, Fire Defence Agency, Ministry of Home Affairs |
| (3) 計画管理 Project Coordinator | 岩崎 英二 IWASAKI, Eiji | JICA無償資金協力調査部 基本設計調査第二課 Second Basic Design Study Division, Grant Aid Study & Design Department, JICA |
| (4) 消防計画 Firefighting Plan | 村上 保富 MURAKAMI, Yasutomi | (財) 日本消防設備安全センター Fire Protection Equipment and Safety Center of Japan |
| (5) 消防車両 Firefighting Trucks | 高橋 茂男 TAKAHASHI, Shigeo | ” |
| (6) 運用・配置計画 Operation and Arrangement Plan | 大野 春雄 ONO, Haruo | ” |
| (7) 機材計画/積算 Equipment Plan/ Cost Estimate | 木戸 昭治 KIDO, Shoji | ” |

別添資料2

イスラマバード消防機材整備計画B/D調査日程表

| | 官 団 員 | コ ン サ ル 団 員 | |
|--------------|-----------------------------------|---|------------------------------|
| 1. 11月11日(月) | 東京→イスラマバード 11:55 20:55(PK753) | 同 左 | (北京経由) 三好団長合流 |
| 2. 12日(火) | イスラマバード | " | JICA事務所、日本大使館 経済省、内閣省表敬訪問 |
| 3. 13日(水) | " | " | CDAとの協議 首都の消防施設現地視察 |
| 4. 14日(木) | " | " | ラウルピンデイ、首都空 港、車両整備工場の視察 |
| 5. 15日(金) | " | " | 調査団打合せ会議 |
| 6. 16日(土) | " | " | CDAとの協議 |
| 7. 17日(日) | " | " | CDAと協議議事録署名 |
| 8. 18日(月) | イスラマバード→カラチ 16:30(PK313) 18:25 | イスラマバード (補足調査) | JICA事務所、日本大使館 経済省、 |
| 9. 19日(火) | カラチ→バンコク 13:00 19:35(PK792) | " | 内閣省でカウンター署名 受領、現地調査 |
| 10. 20日(水) | バンコク→東京 10:30 18:00(TG760) | " | 経済省にカウンター署名 依頼、現地調査 |
| 11. 21日(木) | | " | CDA消防局機材調査 経済省の署名受領 |
| 12. 22日(金) | | " | 新設予定消防署の所在地 調査 |
| 13. 23日(土) | | イスラマバード→カラチ 16:30(PK313) 18:25 | JICA事務所、 |
| 14. 24日(日) | | カラチ | カラチ消防事情調査 |
| 15. 25日(月) | | カラチ→バンコク 3:30 9:55(TG508) バンコク→東京 11:15 19:00(TG640) | |

MOHAMMAD ASLAM,
Joint Secretary (Coord),
Cabinet Division

モハマッド・アスラム
内閣省調整局長

AKHTAR IQBAL,
Deputy Secretary
Economic Affairs Division
Ministry of Finance

アクタル・イクバル
大蔵省経済局部長

FAIZUR RAHMAN
Section Officer
Economic Affairs Division

ファイズル・ラーマン
大蔵省経済局課長

FARID UD AHMAD
Chairman, CDA & Mayor

ファリド・ウド・ディン・アーマド
CDA長官兼イスラマバード市長

MOHAMMAD RAFIQ AHMAD
Member (Engineering), CDA

モハマッド・ラフィーク・アーマド
CDA副長官(技術担当)

ABDUL SALAM WAZIR
Director General, CDA

アブドル・サラム・ワジル
CDA副長官

GHULAM HAIDER CHAUDHRY
Director Municipal
Administration (DMA), CDA

グラム・ハイダー・チョードリ
CDA都市行政部長

ABDUL WAHID SHAHID
Director, Programming,
Evaluation & Costing, CDA

アブドル・ワヒド・シャヒド
CDA企画部長

MUHAMMAD IQBAL-UD-DIN
Deputy Director
(Fire & Civil Defence)
Civil Defence Organization, CDA

ムハマッド・イクバル
CDA副部長

SYED SARFRAZ HAIDER SHIRAZI
Fire Officer
Islamabad Fire Service

サイド・サーフРАЗ・ハイダー・シラジ
イスラマバード消防局長

MOHAMMAD AKBAR
Director (A & C)
Directorate General Civil Defence

モハマッド・アクバル
民間防衛局長

SYED NASIR HUSSAIN
Deputy Airport Manager
Civil Defence Authority

サイド・ナシル・フセイン
民間航空局
イスラマバード空港
副支配人

SAHILE NAWAZ KHAN
Director, Establishment
Agriculture Development
Bank of Pakistan (ADBP)

シャヒル・ナワズ・カーン
バキスタン農業開発銀行

AKBAR NAWAZ
Director Machinery
Pool Organization, CDA

アクバル・ナワズ
CDA 装備工場長

MIAN AHMAD MAHMOOD
Deputy Director Machinery
Pool Organization, CDA

ミアン・アーマド・マームード
CDA 副装備工場長

AZIZ AHMAD
Fire Officer
Rawalpindi Fire Service

アジズ・アーマド
ラウルピンディ消防署長

SHAH REHMAN
Fire Superintendent
Cantonment Board
Rawalpindi

シャーン・レーマン
ラウルピンディ
カントンメン委員会(自治区)
消防署長

S.A.T. WASTI
Director, Public Relations, CDA

S. A. T. ワステイ
CDA 広報部長

MUHAMMAD HAYAT KHAN
Deputy Director
Municipal Administration, CDA

モハマッド・ハヤット・カーン
CDA 都市行政副部長

GHULAM MOHI UDDIN CHAUDHERY
Fire Instructor
Islamabad Fire Service

グラム・モヒ・ウディン・チョードリ
イスラマバード消防局教官

在パキスタン日本大使館

村瀬 一等書記官

JICA パキスタン事務所

所長 御手洗 章弘

所員 吉村 浩司

MINUTES OF DISCUSSIONS
BASIC DESIGN STUDY
ON

THE PROJECT FOR PROVIDING FIREFIGHTING TRUCKS AND EQUIPMENT
FOR ISLAMABAD IN THE ISLAMIC REPUBLIC OF PAKISTAN

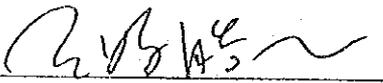
In response to the request from the Government of the Islamic Republic of Pakistan , the Government of Japan decided to conduct a Basic Design Study on the Project for Providing firefighting trucks and equipment for Islamabad (hereinafter referred to as "the Project"), and entrusted the study to the Japan International Cooperation Agency (JICA).

JICA sent to Pakistan a study team, which is headed by Mr. Koichi Miyoshi , Director, Second Basic Design Study Division, Grant Aid Study and Design Department, JICA, and is scheduled to stay in the country from November 11 to November 25, 1991.

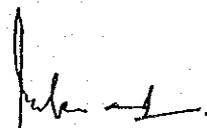
The Team held discussions with the officials concerned of the Government of Pakistan and conducted field surveys at the study area.

In the course of discussions and field survey, both parties have confirmed the main items described on the attached sheets. The Team will proceed to further works and prepare the Basic Design Study Report.

Islamabad, November 17, 1991



Mr. Koichi Miyoshi
Leader,
Basic Design Study Team, JICA



Mr. Muhammad Rafiq Ahmad
Member Engineering
Capital Development Authority
Islamabad.



Muhammad Aslam
Joint Secretary (Coord),
Cabinet Division,
Islamabad.

Counter signed.

oklah
20/11/91
D. P. S (E.A.)
Economic Affairs Division
Islamabad

ATTACHMENT

1. Objective of the Project

The objective of the Project is to assist to enhance fire fighting capability in the Capital Development Authority (CDA) and to protect the lives and property of people in the Specified Area of Islamabad including Rawalpindi and Islamabad Airport by providing the fire fighting trucks and equipment.

2. Project Areas

The project areas are as shown in the attached ANNEX - I .

3. Executing Agency

The Capital Development Authority is responsible for the administration and execution of the Project as well as strengthening of fire fighting forces.

4. Necessary items for the realization of the Project requested by the Government of Pakistan

After discussions with the Basic Design Study Team, the items shown in ANNEX - II were judged necessary for the realization of the Project. However, the final components of the Project may differ from the items mentioned in ANNEX-II if judged necessary after further studies.

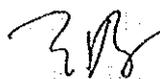
5. Grant Aid system extended by the Government of Japan

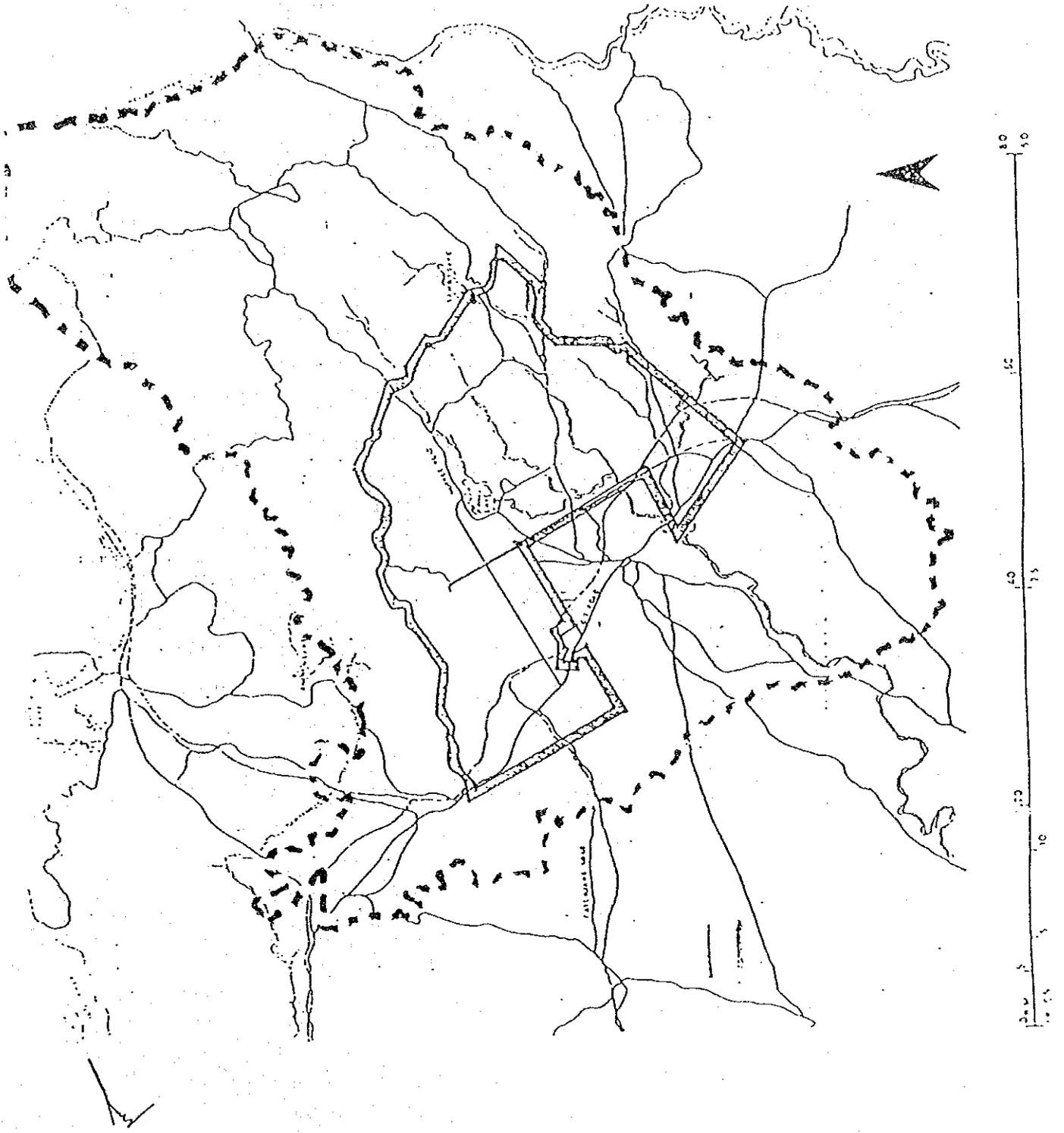
- (1) The Government of Pakistan has understood the system of the Japanese Grant Aid explained by the team.
- 
- 

- (2) The Government of Pakistan will take necessary measures, described in ANNEX - III for smooth implementation of the Project on condition that the Grant Aid Assistance by the Government of Japan is extended to the Project.

6. Schedule of the Study

- (1) The consultants will proceed to further studies in Pakistan until November 25, 1991.
- (2) Based on the Minutes of Discussions and technical examinations of the study results, JICA will complete the final report and send it to the Government of Pakistan by March, 1992.





Specified Area of Islamabad - - - - -
Islamabad Capital Territory Limits = = = = =

Handwritten signature

NECESSARY ITEMS FOR REALIZATION OF THE PROJECT

| Vehicles | Number |
|---------------------------------------|--------|
| 1) 46m aerial ladder truck | 1 |
| 2) Fire truck with 12,000ℓ water tank | 9 |
| 3) Fire truck with 4,000ℓ water tank | 2 |
| 4) Rescue truck | 1 |
| 5) Command car | 1 |
| 6) Pickup truck | 1 |
| ----- | |
| Total | 15 |
| Others | |
| 7) Rescue equipment | 1 set |
| 8) Spare parts | 1 set |
| 9) Consultancy services | 1 set |

ANNEX III

Necessary measures to be taken by the Government of Pakistan

1. To bear the following commissions to the Japanese foreign exchange bank for banking services based upon the Banking Arrangement.
 - 1) Advising Commission of Authorization to Pay
 - 2) Payment Commission
2. To ensure prompt unloading, tax exemption, customs clearance at ports of disembarkation in Pakistan and prompt internal transportation of the fire fighting trucks and equipment provided under the Grant Aid.
3. To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into Pakistan and stay therein for the performance of their work.
4. To assign the necessary number of fire personnel for the fire fighting trucks and equipment purchased under the Grant.
5. To assign, maintain and use properly and effectively the fire fighting trucks and equipment purchased under the Grant and to strengthen the fire fighting forces by constructing the remaining sub-stations.
6. To bear all the expenses other than those to be borne by the Grant Aid, necessary for the execution of the Project.

JICA